

# 企画・広報分科会の活動成果および オープンラボの今後について

2004年10月28日

企画・広報分科会リーダー

楠木 久継

# 企画・広報分科会の活動内容

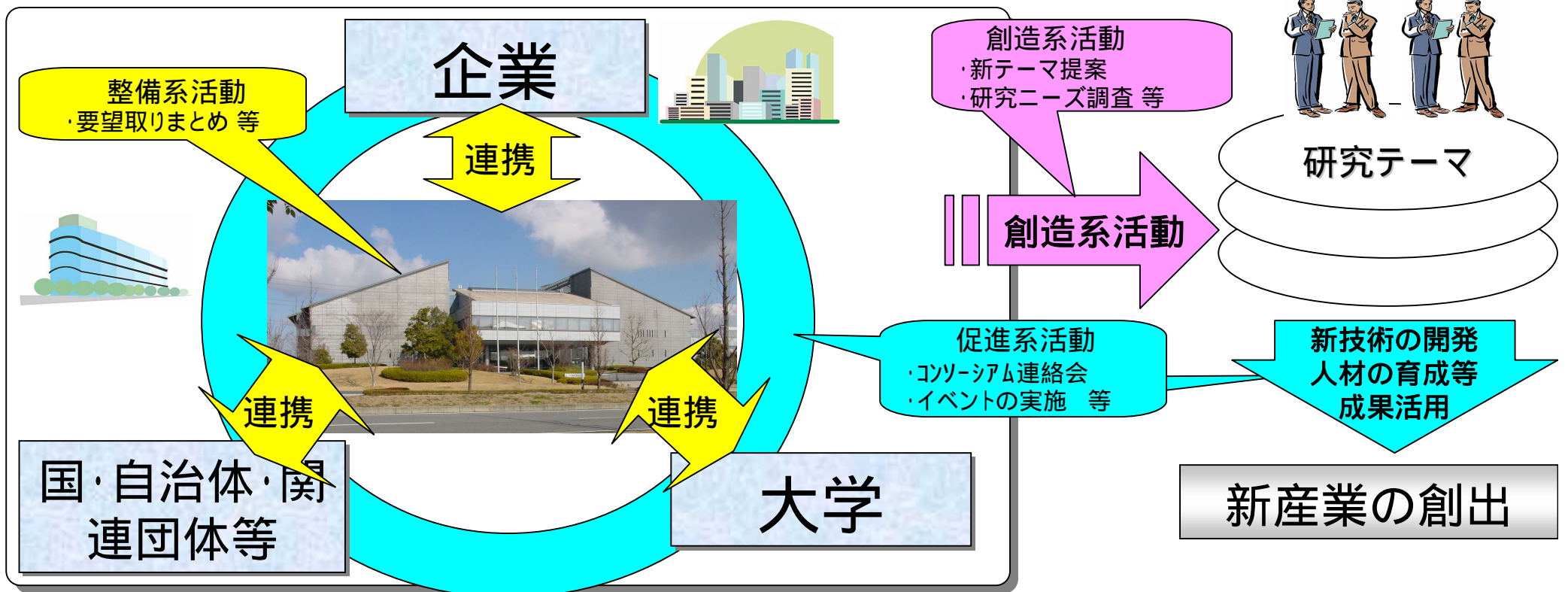
## 企画・広報分科会における活動内容

利用者ニーズ集約の場として、新たなテーマの創造とより良い研究環境の追求、ラボの利用・成果活用促進を目指し、下記活動を中心に行う。

定期的な会員への研究ニーズ調査、内外の動向調査ならびにNICTからの提案に基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討【 創造系活動】

定期的な「コンソーシアム連絡会」開催による各研究開発テーマ間の交流促進、シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産官学連携促進、および都市産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進【 促進系活動】

知的財産関連ルールの検討、研究開発整備要望など研究活動推進【 整備系活動】



## 企画・広報分科会の活動成果(1)

### 【 創造系活動 】 「 オープンラボの中長期的な方向性を検討 」

・新たな研究テーマ創出に向けた研究ニーズ調査を協議会会員を対象に実施(H16.7)

(ご意見例)

- (1)けいはんなオープンラボの特質を活かせるテーマ、例えばネットワークインフラを活かせるようなテーマに集中して検討することが望ましい。
- (2)オープンラボ自身に簡単な工房機能を設け、会員各位の研究に必要な簡単なデバイスなどを提供する機能を持たせる。
- (3)現在のオープンラボでの研究テーマはビジネスに結びつきにくいシーズ研究が多い。
- (4)次世代商品イメージを先に考え、それに必要な先端技術をニーズとしてとらえ研究テーマとする
- (5)国内に限ったブロードバンドではなく、グローバル展開への道を開く研究実施。
- (6)ハードウェアインフラ整備のみだけでなく、情報コンテンツのグローバル通信流通を促進するソフトウェア、通信プロトコルの開発研究。
- (7)インフラからユーザー端末までの高速接続技術が実証できれば面白い

## 企画・広報分科会の活動成果(2)

### 【 促進系活動】「研究者同士の情報交換・交流の場を創る」

#### 《コンソーシアム連絡会の開催》

研究系分科会、関係機関・団体との意見交換、交流の場

第1回コンソーシアム連絡会(H15.10)

場所：けいはんな情報通信オープンラボ

内容・コンソーシアム連絡会について

- ・研究系分科会 各WG活動計画・内容報告
- ・その他意見交換

第2回コンソーシアム連絡会(H16.2)

場所：けいはんな情報通信オープンラボ

内容・講演「地域における産学官連携プロジェクトについて」

講師： 旧TAO 北九州情報通信研究開発支援センター：広岡副センター長、  
けいはんな情報通信研究開発支援センター：西浦副センター長

- ・関西の自治体における実証実験フィールドのご紹介
  - 「IT都市・大阪の形成に向けて(大阪府)」
  - 「新産業創造ITビジネスモデル地区推進計画(大阪市)」
  - 「京都デジタル疎水ネットワーク(京都府)」

総務省の平成16年度予算について

#### 《シンポジウムの開催》

「けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2004」の開催(H16.10)

場所：けいはんなプラザ

参加者数：約160名

## 企画・広報分科会の活動成果（3）

### 【促進系活動】「協議会活動の外部へのPR、情報発信」

- ・ 協議会Webサイト構築（H15.6～）、パンフレット作成（H16.10）



協議会Webサイト  
( <http://www.khn-openlab.jp/> )



協議会パンフレット



## 企画・広報分科会の活動成果（４）

### 【 整備系活動】 「知的財産関連ルール検討、整備要望活動」

- ・ N D A 契約の雛形案を提示（ H 1 5 . 3 ）
- ・ 研究環境整備要望ルールの策定（ H 1 5 . 8 ）
- ・ オープンラボ整備要望に向けた調査を協議会会員を対象に実施（ H 1 6 . 7 ）

（ご意見例）

- (1) オープンラボ自身に簡単な工房機能を設け、会員各位の研究に必要な簡単なデバイスなどを提供する機能を持たせる
- (2) 模擬手術を行い、様々なテストが可能な仮想手術室などの整備
- (3) ユビキタス研究で、ホームよりオフィス、路上、交通機関等、企業で実現が困難な場を提供する
- (4) 最先端技術をサーベイできる情報収集機能を持ち、それをビジネスに結びつける場  
（産官学でフリーにディスカッションできるラボ）
- (5) ユビキタスホームの各種センサ群やサーバを共通に利用できる環境、相互接続実証実験などのために必要な技術情報(各種DBや相互接続プロトコルのAPI情報など)の開示
- (6) ユビキタスホームとJGN やGMPLSネットワーク等の高速ネットワークを相互接続
- (7) JGN -IIのグローバル化。海外の研究開発用ブロードバンドネットワークとの相互接続化
- (8) ITと環境対策・環境保護活動との連携